

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	スーパーサイエンス事業	会計	一般会計	事業No.	747	施策順No.	29-004	
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-1-14-1			
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	生涯学習・スポーツ課			
施策	29 ふるさと意識の醸成			事業期間	開始	19	終了	22

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小学生、中学生、高校生、及び保護者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)	107259	106630	105691	105036		
		子育てをしている家庭(戸) (0歳~18歳までの子どもがいる世帯とする)	10833	10665	10432	11000		
意図	モノづくりの心を育成する。地域の企業活動を知る。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	参加人数(人)	59	59	59	60	100		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	シチズン平和時計の体験希望者が多く2回開催。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	子どもたちにモノづくりの心を育成する。そのために企業の先進的な原理に触れる機会や従業員との交流から地域企業を理解することにもつながる。企業の博物館類似施設や研修施設等を活用したモノづくり親子体験などを行う。公民館、工業課等と連携して実施する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	親子ものづくり体験教室を実施 (1)シチズン平和時計(株) 工場見学、親子時計組立体験 第1回7月24日(土)36人、第2回3月23日(水)38人 (2)旭松食品(株) 納豆のねばねばを探ろう 親子納豆づくり体験 2月19日(土)26人	開催回数 参加者数	3回 100人
23年度実施計画	親子ものづくり体験教室 工業課の次世代を担う産業人材育成事業に予算統合し、新規事業所の開拓をキャリア教育推進事業で実施		

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		37	17	0		
計(A)		37	17	0		
正規職員所要時間			60			
臨時職員等所要時間				215		
人件費計(B)				215		
トータルコスト A+B				232		

4 事業に対する市民や議会の意見

企業、工業課等からの期待も高い。地域研究団体連絡協議会の活動に伊那谷学の推進が取り上げられた。各機関団体の連携で、人文、自然科学等の各分野の研究活動が活発化すると期待もある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①地域を知る ②地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムトス指標	ふるさとを誇りに思っている市民の割合:% この地域に住み続けたいと考えている高校生の割合:%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	企業の基本的な技術の原理を体験学習し、モノづくりの心を醸成するとともに、地元企業のすばらしさを知る機会となり地域を誇りに思う心を醸成する取り組みであり次世代の育成につながる。		
	後期に向けた課題			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	単なるモノづくり体験だけではなく、企業の歴史や技術を学ぶ時間や従業員と交流しながら体験するプログラムとしている。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	講座の案内チラシを他の事業と一緒に印刷した。ホームページによる講座申込を実施した。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	講座参加者からは保険料を含む受講料を徴収しており適性と考えている。地元企業の素晴らしさを知る機会として市の関与が必要である。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	地元企業を理解する、ものづくりを体験する取組として、企業の協力により実施している。市は工業課と連携して、市民・学校・家庭等とのコーディネートを行っている。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	産業経済部の次世代を担う産業人材育成事業と連携して事業実施した。		
	後期に向けた課題	予算は次世代を担う産業人材育成事業に統合し、企業資源を活用した親子体験講座として実施を検討していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要がありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	--